

「農業技術の匠」：^{つかもと}塚本 ^{みのる}實さん（岐阜県中津川市）

～ くりの長結果母枝を利用した超低樹高栽培技術の開発 ～



〔塚本 實さん〕

1 技術確立の背景(目的)

岐阜県東濃地域は、くりの栽培面積が 200ha を超える県下最大のくり産地で、くりを原料とした菓子製造業者も多く、くりは重要な農作物として位置付けられています。

くりは、一般的に植え付けから 15 年程度過ぎると生産性が低下しますが、当該産地では、15 年を過ぎた樹齢の古い樹が多くなりつつあるとともに、生産者の高齢化などの労力事情から改植が進まない状況にありました。

塚本さんは、改植を行わずに樹齢が 15 年以上経過しても品質が良く安定した生産量が維持でき、高齢者や女性でも安全に作業ができる剪定技術を開発しました。

2 技術概要(技術効果)

主枝を垂主枝の分枝している位置（樹高 2.5m）で切り落とし、翌年は骨格枝（前年までの垂主枝）から発生した長い発育枝を結果母枝とします。

その後の剪定は、当年の結果母枝を基部から毎年更新することで、剪定位置を低く維持しながら高品質で安定した生産を可能となり、経済樹齢を大幅に延長できる画期的な栽培技術です。

これにより隔年結果も無くなり、年毎に安定した生産量が得られ農業所得の向上につながります。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

現在、東濃地域で 74 戸の農家（栽培面積 42 ha）が塚本さんの開発したくりの超低樹高栽培に取り組んでいます。

また、この技術で生産されたくりは契約取引などで「超特選栗」として地元の菓子業者に出荷され、業者からは、さらなる出荷量の拡大が期待されています。

今後も、地産地消の拡大を通じた地域の経済効果や新たな担い手の育成に繋がると期待されていることから、東美濃栗振興協議会を中心に栽培面積の拡大と栽培技術の普及に取り組んでいます。



〔夏季剪定講習会の開催〕

くりの長結果母枝を利用した超低樹高栽培技術により生産された「超特選栗」



※最寄りの普及指導センター { 岐阜県東濃地域農業改良普及センター
住所：岐阜県恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL：0573-26-1111

<「農業技術の匠」のポイント>

経済樹齢を大幅に延長し、高品質安定生産を実現する剪定技術

- ① 従来の低樹高栽培の樹において、樹齢が15年以上で樹高（3.5m）が高くなった主枝を垂主枝が分枝している位置（2.5m）の高さで切り落とし、翌年以降は、骨格枝から発生した長い発育枝を結果母枝として利用し、当年の結果母枝は基部から毎年更新することで樹高を低く維持する。
- ② 剪定作業時間は脚立上での作業が慣行栽培の3分の2と少なくなり作業の安全性が確保され軽作業化に繋がるため、女性や高齢者でも作業がしやすい。
- ③ 主枝の切り落としにより、一時的に減収となるが、その後次第に生産量は回復し、高品質で安定した生産が維持でき、農業所得の向上が期待できる。
- ④ 主枝の切り落とし時期の目安は成木15年目であるが、個体差があるため、樹勢低下等を見極めてから実施する。



【左：主枝の切り落とし前 右：主枝の切り落とし後】

<樹齢別の樹形の推移>

